



岐阜県政記者クラブ加盟社 各位

農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ同時配布資料

令和5年1月17日（火）岐阜県発表資料



担当課	担当係	担当者	電話番号
畜産研究所	養豚・養鶏研究部	吉岡	直通 0575-22-3165
			FAX 0575-22-3164
農政課	農業研究推進係	早野	内線 4025
			直通 058-272-1901
			FAX 058-278-2680

しゅとん 種豚「ボークブラウン」の出荷再開

県畜産研究所養豚・養鶏研究部では、一般的な豚肉よりも霜降りが多い特徴を持つ種豚「ボークブラウン」を育成し、県内養豚農場に精液や種豚を出荷してきました。平成30年に発生した豚熱により出荷を中止しておりましたが、下記のとおり県内養豚農場への精液等提供を再開できることとなりましたのでお知らせします。

なお、出荷する種豚は、従前の「霜降り能力」に加え、新たに「抗病性能^{※1}」を有する種豚として改良されています。

記

1 これまでの経緯

- 平成30年12月に発生した豚熱により、県畜産研究所で飼養していた「ボークブラウン」は全頭殺処分となった。
- 令和元年7月に豚熱発生以前に県内養豚農場へ譲渡していた種豚を買い戻し、ボークブラウン再造成を開始。
 - 令和元年7月、海津市に「緊急避難豚舎」を整備し、種豚を保護
 - 令和2年3月、関市の養豚・養鶏研究部に高い防疫機能を有する新たな豚舎の整備を開始
 - 令和3年7月、新豚舎の一部が完成、海津市で保護していた種豚を関市に移し、再造成を実施中



ボークブラウンの子豚



再造成した種豚

2 精液等出荷の時期及び数

現在、雄6頭、雌3頭、合計9頭の種豚が育成でき、このたび、精液等の提供が再開できることとなった。当面は、週20～40本の精液出荷、年数頭の種豚出荷を予定。

時期	精液出荷	種豚出荷
再開(R5.2月～R6年度)	20～40本/週	数頭/年
R10年度を目途	140本以上/週	20頭以上/年
従前(H30.12月以前)	140本/週	20頭/年

3 種豚能力について

- ・従前の「霜降り能力」に加え、新たに「抗病性能力」を持つよう改良。
 - ・具体的には、豚のウイルス感染症の1つである「豚サーコウイルス※2 2型」が感染した際に、病気が重症化するか・しないかといった性質と関連する遺伝子配列を特定。
 - ・この遺伝子配列を検査し、個体を選抜することで、抗病性を持った種豚を「新生ボーノブラウン」として造成。
- ・抗病性の性質を持つ種豚の精液を活用することで、生まれた豚が病気に強くなるため、県内養豚農家の生産性の向上など様々なメリットがある。

なお、これらのウイルス感染症に対する抵抗性を高める新技術は、県畜産研究所と、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）との共同研究により、世界で初めて開発したものとなる。

- ※1 抗病性能力：豚サーコウイルスに感染しても重症化しにくい能力。検査方法を県と農研機構で共同開発し、一部について特許出願中。
- ※2 豚サーコウイルス：感染すると、死産や離乳後の子豚の死亡が多くなる病気。国内で広く蔓延しており、死亡率が6割を超えることもある。

注) 抗病性に関する研究成果は、生物系特定産業技術研究支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(01002A / 01002AB2)*、JRA 畜産振興事業及び農林水産省委託プロジェクト「DNA マーカー育種の高度化のための技術開発」により得られたものです。

*農林水産省が推進する産学連携研究の仕組みの「知」の集積と活用の中産学官連携協議会において組織された研究開発プラットフォームのうち「日本型畜産・酪農研究開発プラットフォーム」の中の課題です。